**【論点】**

本文の3カ国のケース・スタディについて理解を深め、

「グローバル・シティズンシップ」について考えよう

◆Approaches to education for citizenship in any one country are informed by the way citizenship is framed in that particular context. This is influenced by a range of **historical, philosophical, social, political, cultural and economic factors**. (p.110 最後の段落l.3～)

⇒シティズンシップは特有のコンテクストで形作られ、それにより、あらゆる国でシティズンシップ教育へのアプローチが伝えられている。これは**歴史的・哲学的・社会的・政治的・文化的・経済的な要因**から影響を受けている。

◆Citizenship education concerned only with one’s own country is clearly insufficient for our global world. (p.119 本文l.6-7)

⇒自分の所属する国についてだけ関心をもつようなシティズンシップ教育では、このグローバル世界にとっては明らかに不十分である

**①　3カ国のケース・スタディから、さまざまな視点でそれぞれの国のシティズンシップ教育の特徴（類似点や異なる点）を捉えよう**

例）

★各国におけるシティズンシップの定義

★歴史的・哲学的・政治的・社会的・経済的な背景によるアプローチの違い

★シティズンシップ教育の位置づけ

**②　①を踏まえて、グローバル・シティズンシップへのアプローチに必要な視点や重要な要素は何か考えよう**

本文（pp119-120）では…

★2つの包括的視点：市民共和主義者の視点（責任、参加）、自由主義者の視点（競争）byシャトル

★定義：世界の動きの認識、多様性の尊重、幅広いコミュニティへの参加等ができる byオックスファム

等が言われている

【参考（本文より）】

**◆シティズンシップ教育へのアプローチの一連の流れ**（p.115）

◇「シティズンシップ***のための***教育」

：生徒が成人市民としての**役割を担い、責任を全うする準備させる**ことが目的の**最大のアプローチ。**

◇シティズンシップの積極的要素

：契約／政治的活動／ボランティア活動／政治的社会的指導の変革活動への参加

◇「シティズンシップ**についての**教育」

：生徒に国の政治組織や制度の**知識を与える**もので、教室で行われうる**最小のアプローチ**。

◇シティズンシップの消極的な要素

：ナショナル・アイデンティティー／愛国心／忠誠心の自覚

**◆3カ国のケース・スタディ**（pp113-118）

イングランド　　　　　　　　　　　アメリカ　　　　　　　　　　　インド

1994

国家及びコミュニティー・サービス法

→サービス・ラーニングを全国に推進

　：教授＜学習　、**社会奉仕**

◆キャンパス・コンパクトの展開

：サービス・ラーニングに関する大規模な大学連合体

◆サービス・ラーニングの学習成果

社会的責任と効果的な参加に必要とされる要素への貢献が実証された

（1998クリック・レポート）

①**社会的道徳責任**

②**地域コミュニティへの参加**

③**政治リテラシー**

↓

2002　CE中等学校で必修化

1988　教育改革法

横断的カリキュラムのテーマとして導入

（2006アジェグボ・レポート）

④**多様性とアイデンティティ**

↓

2008カリキュラム改訂

生活と仕事のスキルの発達を強調、学習内容の柔軟性UP

◆社会参加プログラム

：大学の学部生たちに、自分たちよりも低い階級のコミュニティやグループに対して様々なボランティア経験をさせる

⇒**インド市民としての責任の自覚**